

令和元年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号（果樹）



かんきつは南部の以下の地域が対象です。
※西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以东の沿岸島しょ部

令和元年9月18日(水) 発表 広島県西部農業技術指導所
対象期間 令和元年9月18日(水)～10月下旬

もくじ

- 1-(1) かんきつ病害虫の現況と予報（概要）・・・P1～2
- 1-(2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）・・・P2～4
- 2 果樹カメムシ類の発生状況・・・P5
- 3 気象情報・・・P5
- 4 お知らせ・・・P6

1-(1)		かんきつ病害虫の現況と予報（概要）		9月11日(水)～13日(金)調査
病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項（防除時期）	
黒点病	やや少	やや少	◇黒点病防除剤散布後、累積降水量が250mmを超えるか、1か月経過したら黒点病のまん延防止のため再度防除を行う。 ◇収穫期が近いので、散布に際しては使用時期（収穫前日数）に注意する。 ◇樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため、常時除去し、園外で処分する。	
かいよう病	並	並	◇強風雨により発生が助長されるので、 <u>台風襲来前</u> に防除を徹底する。 ◇窒素肥料を過剰に施用すると夏秋梢の発生を助長するため、肥培管理は適切に行う。 ◇ミカンハモグリガの食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。	
ミカンハダニ	やや少	やや少	◇薬剤が葉裏にもかかるよう、ていねいに散布する。 ◇追加防除を実施する場合は、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。 ◇抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。 ◇マシン油乳剤による越冬期防除を行う。	
ミカンサビダニ	やや多	やや多	◇特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意する。 ◇薬剤のかけむらがないよう、ていねいに散布する。 ◇抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。	
ナシマルカイガラムシ	やや多	やや多	◇移動性が低く、ほ場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺する。 ◇マシン油乳剤による越冬期防除を行う。特に、発生園では確実に実施する。	
ヤノネカイガラムシ	並 ※発生なし	並		

病害虫名	現況	防除上の注意事項（防除時期）
イセリヤカイガラムシ	並 ※発生なし	◇移動性が低く、ほ場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺する。 ◇マシン油乳剤による越冬期防除を行う。特に、発生園では確実に実施する。
チャノキイロアザミウマ	—	◇第7世代の発生ピークは、気温が平年並みに推移した場合9月26日と予測される。 ◇発生ピーク予測日の7日前～発生ピーク当日の防除が効果が高いとされている。

1-(2) かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）

黒点病



現況（平年比）	予報の根拠	（+）：多発要因，（±）：平年並，（-）：少発要因
やや少	◆巡回調査では、少ない発生であった。 ◆向こう1か月の降水量予報は、多い30%、平年並30%、少ない40%と予想されている（-）。	
予報（平年比）		
やや少		

防除対策

- ◆農薬による防除
 - ・降雨によって発生が助長されるため、降雨前の薬剤散布を徹底する。
 - ・前回の防除から累積降水量が250mmを超える場合は、ただちに再度防除を行う。
 - ・収穫期が近いため、散布に際しては使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ◆耕種的防除
 - ・夏期の干ばつにより生じた枯れ枝は感染源となるため、除去し園外で処分する。

巡回調査データ

黒点病発病地点率

黒点病発病果率

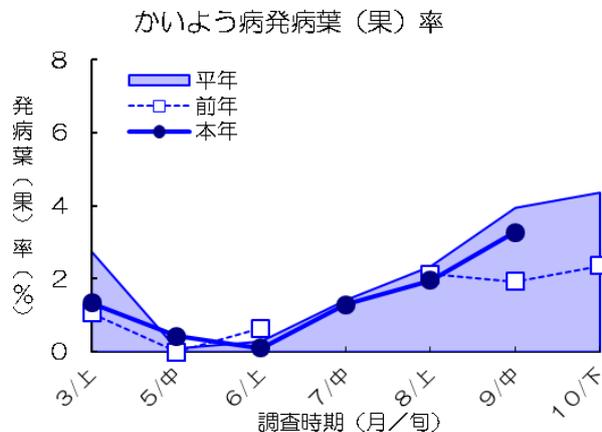
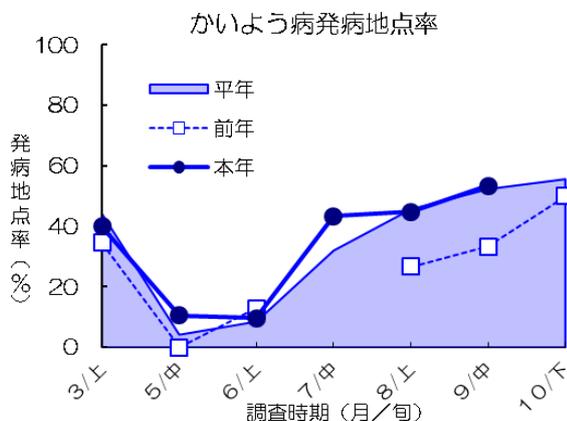
（注）前年の7月中旬は豪雨災害のため欠測

	現況(平年比)	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並, (-) : 少発要因
	並		
	予報(平年比)	◆巡回調査では、平年並の発生であった。 ◆向こう1か月の降水量予報は、多い30%、平年並30%、少ない40%と予想されている(-)。	
	並		

防除対策

- ◆農薬による防除
 - ・感染前の予防が重要なため、薬剤の予防散布に努める。
 - ・薬害発生防止のため、銅水和剤の散布時にはクレフノン(200倍)を加用する。
- ◆耕種的防除
 - ・罹病した葉や果実が感染源となるため、除去する。

巡回調査データ



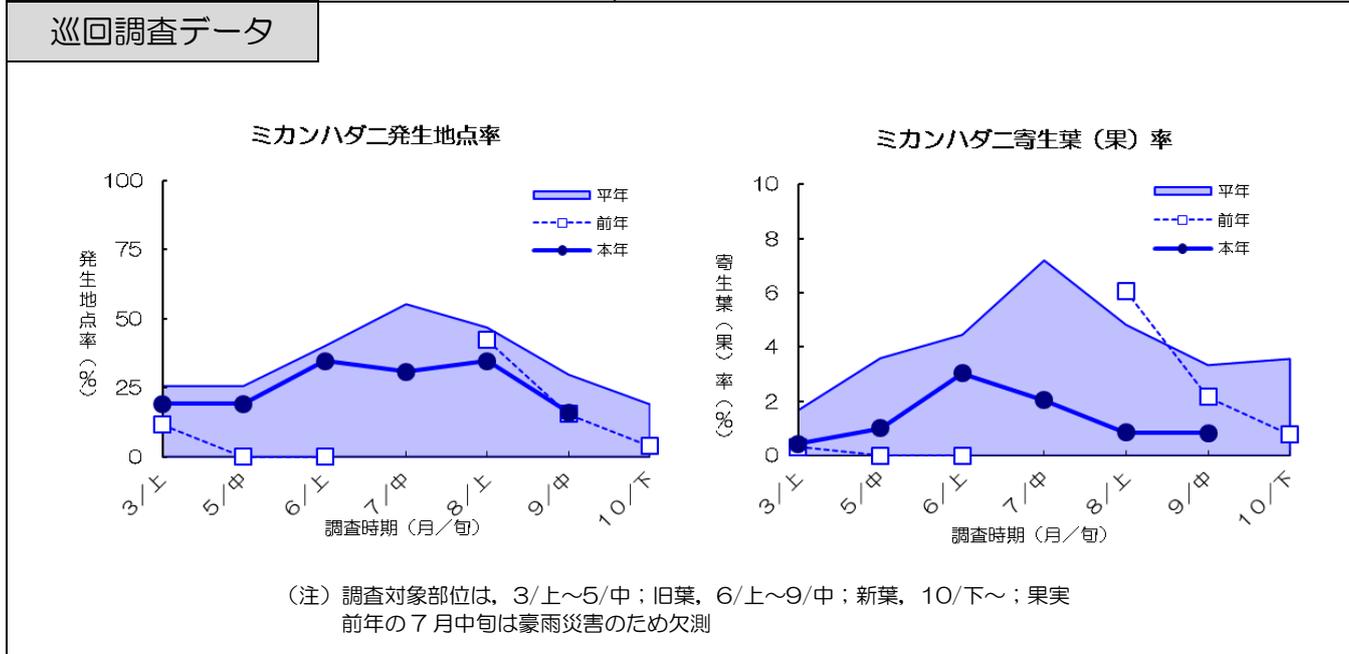
(注) 調査対象部位は、3/上：旧葉、5/中～7/中：新葉、8/上～；果実
前年の7月中旬は豪雨災害のため欠測

【発生量について】

「予報」「現況」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分の方法は、原則として、過去10年間の同時期の調査結果の数値を、発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

<h2>ミカンハダニ</h2> 	現況(平年比)	予報の根拠	(+) : 多発要因, (±) : 平年並, (-) : 少発要因
	やや少	◆巡回調査では、やや少ない発生であった。 ◆向こう1か月の気象は、気温が高い60%、平年並30%、低い10%、降水量予報は、多い30%、平年並30%、少ない40%と予想されている(+).	
予報(平年比)			
	やや少		



チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマは、防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、かんきつ園に飛来する。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなる。

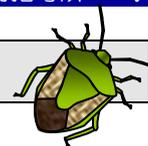
チャノキイロアザミウマは、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測できる。また防除適期は、発生ピークの7日前からピーク当日が効果的であることが分かっている。

例年被害がみられるほ場では表1を参考に、この時期に合わせた防除を行う。

表1. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日(生口島アメダスデータに基づく)

今後の気温	発生ピーク予測日
	第7世代
平年より高い(+1℃)	9月26日
平年並	9月26日
平年より低い(-1℃)	9月27日

2 果樹カメムシ類の発生状況



県内5地点の集合フェロモントラップへの誘殺状況は、8月第2半旬から9月第2半旬まで少なく推移している。

表2. 県内各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数(8月第2半旬~9月第2半旬) 単位: 頭

設置地点	本年	平年 ※1	注意報発表年 平均 ※2	注意報未発表年 平均 ※3
東広島市安芸津町	94.0	119.5	299.0	42.5
福山市神辺町	8.0	6.6	17.7	1.0
世羅町	25.5	65.7	182.6	15.5
庄原市東城町	10.0	98.7	319.4	4.1
庄原市高野町	13.0	123.6	393.3	8.0

- ※1 各調査地点の平年とは、過去10年(平成21年~)の平均値
ただし、福山市神辺町のみ過去9年(平成22年~)の平均値
- ※2 注意報発表年は、注意報を発表した年(平成22, 24, 26年)
- ※3 注意報未発表年は、平成21年以降で、平成22, 24, 26年を除いた年

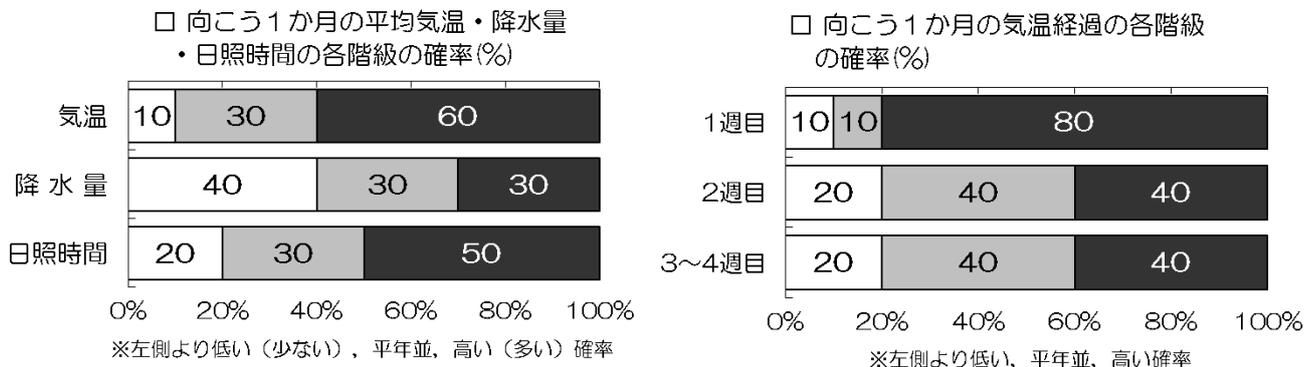
ほ場内をよく見回り、発生が認められた場合は速やかに防除を実施する。
また、集合フェロモントラップへの誘殺状況等、今後発信する情報(広島県ホームページ)に注意する。

3 気象情報

中国地方1か月予報

(広島地方気象台9月12日発表, 9月14日から10月13日までの天候見通し)

天気は数日の周期で変わりますが、平年と比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、多い確率50%です。
週別の気温は、1週目は高い確率80%です。2週目は平年並みまたは高い確率ともに40%です。3~4週目は、平年並みまたは高い確率ともに40%です。



4

お知らせ

◇病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、広島県ホームページで閲覧できます。



広島県 植物防疫

検索 

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>

今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）